

第1章 CLIP STUDIO PAINTを始めよう

Section 01	CLIP STUDIO PAINTとは	012
Section 02	CLIP STUDIO PAINTの特徴	014
Section 03	CLIP STUDIO PAINTのグレード	017
Section 04	CLIP STUDIO PAINTをインストールしよう	020
Section 05	CLIP STUDIO PAINTを起動/終了しよう	024
COLUMN	CLIP STUDIO PAINTの動作環境	026

第2章 基本機能・設定について知ろう

Section 06	CLIP STUDIO PAINTの画面構成	028
Section 07	絵を描く流れを知ろう	030
Section 08	新規キャンバスを作成しよう	032
Section 09	パレットを使った操作を知ろう	034
Section 10	カラーサークルについて知ろう	036
Section 11	CLIP STUDIO PAINTの筆圧を調整しよう	040
Section 12	キャンバスを操作しよう	042
Section 13	ツールでキャンバスを操作しよう	046
Section 14	パレットをカスタマイズしよう	048
Section 15	キャンバスに画像を読み込もう	052

Section 16	タイリングを活用しよう	054
Section 17	3D素材を利用しよう	055
Section 18	データの保存と書き出しをしよう	058
Section 19	もしものときのバックアップデータと復元について知ろう	062
Section 20	環境設定をカスタマイズしよう	064
COLUMN	ショートカットを左手用デバイスに登録しよう	066
COLUMN	CLIP STUDIO PAINTで使えるショートカットキー	068

第3章 レイヤーを使おう

Section 21	レイヤーについて知ろう	070
Section 22	レイヤーの種類	072
Section 23	新規レイヤーを作成しよう	074
Section 24	レイヤーを削除しよう	076
Section 25	レイヤーをロックしよう	077
Section 26	下描きレイヤーを作成しよう	078
Section 27	レイヤーに名前を付けよう	080
Section 28	レイヤーの表示を切り替えよう	081
Section 29	レイヤーの不透明度や色を変更しよう	082
Section 30	レイヤーを並べ替えよう	084
Section 31	レイヤーを結合しよう	085

Section 32	新規フォルダを作成しよう	087
Section 33	レイヤーを転写しよう	088
Section 34	レイヤーを変換しよう	089
Section 35	レイヤーに合成モードを設定しよう	092
Section 36	おすすめ合成モード①乗算	098
Section 37	おすすめ合成モード②加算	099
Section 38	おすすめ合成モード③オーバレイ・ソフトライト	100
Section 39	おすすめ合成モード④比較(暗)・比較(明)	101
Section 40	フチ付きレイヤーを使おう	102
Section 41	クリッピングマスクを使おう	104
Section 42	レイヤーマスクを使おう	105
Section 43	レイヤーから選択範囲を指定しよう	112
Section 44	べた塗りレイヤーを作成しよう	114
Section 45	グラデーションレイヤーを作成しよう	116
Section 46	色調補正レイヤーを作成しよう	118
Section 47	複数のレイヤーを組み合わせて使ってみよう	120
Section 48	PSDに変換すると色が変わってしまうときに	122

第4章 ペン・ブラシツールを使おう

Section 49	使用するペンを変更しよう	124
Section 50	ペンの詳細設定	126
Section 51	ペンの種類	129
Section 52	塗りつぶしツール	131
Section 53	エアブラシツール	136
Section 54	デュアルブラシを設定しよう	138
Section 55	スポイトツール	140
Section 56	色混ぜツール	142
Section 57	消しゴムツール	144
Section 58	グラデーションツール	148
Section 59	デコレーションツール	152
Section 60	ブラシを自作してみよう	154
Section 61	ブラシを選んで自然にぼかそう	158
COLUMN	必要な素材をダウンロードしよう	160
COLUMN	各素材を読み込んで使えるように準備しよう	162

第5章 移動・選択・変形ツールを使おう

Section 62	選択範囲について知ろう	164
Section 63	自動選択ツール	166
Section 64	レイヤー移動ツール	169
Section 65	選択範囲ツール	170
Section 66	変形機能を使おう	176
Section 67	操作ツール	180
Section 68	線修正ツール	182
Section 69	ごみ取りツール	190
Section 70	ゆがみツール	192
Section 71	虫めがねツール	194

第6章 図形・テキストツールを使おう

Section 72	図形ツール	196
Section 73	定規ツール	202
Section 74	テキストツール	206
COLUMN	3Dプリミティブを使って背景のアタリを作ろう	210

第7章 CLIP STUDIO PAINTでイラストを描こう

Section 75	長い間上達しなくて悩む人へ	212
Section 76	描き方よりも見るのが大切	213
Section 77	作風によってワークスペースとブラシを使い分けよう	214
Section 78	ラフを描こう	216
Section 79	線画と下塗りを描こう	217
Section 80	小物を塗ろう	220
Section 81	目などの描き込みをしよう	223
Section 82	加工しよう	226
Section 83	瞳の塗り方	228
Section 84	髪の毛の塗り方	230
Section 85	髪を修正しよう	232
Section 86	顔を修正しよう	233
COLUMN	よくズレやすいところをチェックしよう	234
	索引	236

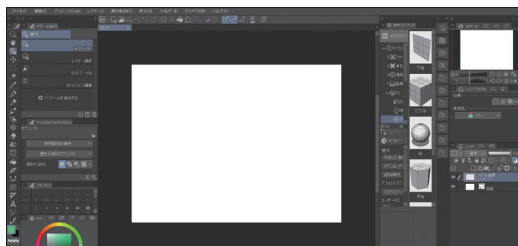
絵を描く流れを知ろう

イラストを制作していくときの流れを確認しましょう。ここでは、おおまかな流れに沿って必要な操作や機能についてまとめています。

イラスト制作のおおまかな流れ

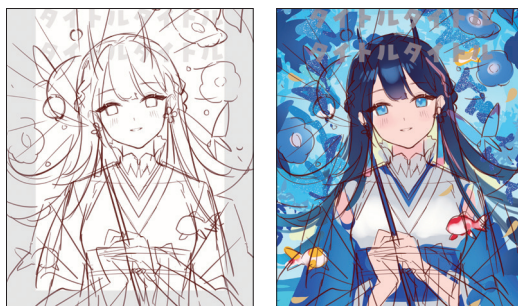
1 設定 デジタルイラストを快適に描いていくための設定を行います。

- CLIP STUDIO PAINT の画面構成 → P.028 参照
- パレットを使った操作 → P.034 参照
- CLIP STUDIO PAINT の筆圧調整 → P.040 参照
- パレットのカスタマイズ → P.048 参照
- 環境設定 → P.064 参照



2 下描き・カラーラフ レイヤーを分けつつ、下描きとカラーラフを描いていきます。

- 新規キャンバス作成 → P.032 参照
- カラーサークル → P.036 参照
- キャンバスの操作 → P.042 参照
- 画像の読み込み → P.052 参照
- ラスターレイヤー作成 → P.074 参照
- レイヤー表示の切り替え → P.081 参照
- 新規フォルダ作成 → P.087 参照



MEMO ▶ あくまで“著者流”

ここで紹介するイラスト制作の流れは、あくまで一例であり、必ずこの通りに描いていかなければならないというものではありません。また、イラスト制作の過程で、各工程が行ったり来たりすることはよくあります。CLIP STUDIO PAINTでさまざまなイラストを描いていくうちに、自分のやりやすい手順ややり方などを見つけたらその方法で描いていくとよいでしょう。CLIP STUDIO PAINTの使い方やツールなどの操作に慣れるまでは、ここの流れを参考にしてみてください。

3 線画 下描きをなぞって、イラストの線をきれいに整えていきます。

- ベクターレイヤー作成 → P.075 参照
- ペンツールの手ブレ補正 → P.126 参照
- ごみ取りツール → P.190 参照
- 線修正ツール → P.182 参照
- 定規ツール (対称定規) → P.204 参照
- 3D素材の操作 → P.056 参照



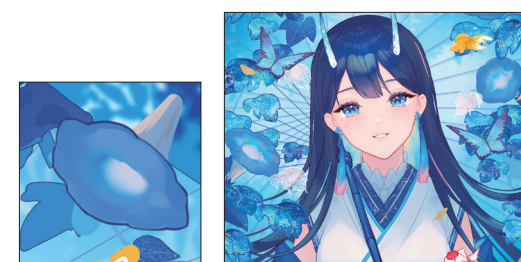
4 塗り・描き込み 線画の上に色を乗せていきます。パーツごとに細かい描き込みもしていきます。

- スポイトツール → P.140 参照
- クリッピングマスク → P.104 参照
- タイリング → P.054 参照
- 自動選択ツール → P.166 参照
- 変形機能 → P.176 参照
- ゆがみツール → P.192 参照



5 仕上げ 合成モードを変えたり、イラストに効果を付けたりして加工し、仕上げます。

- デコレーションツール → P.152 参照
- 素材のダウンロード → P.160 参照
- ブラシの自作 → P.154 参照
- 合成モード → P.092 参照
- レイヤーマスク → P.105 参照
- 色調補正レイヤー → P.118 参照



MEMO ▶ 下描きをアナログで描く場合

紙に描いた下描きを、スキャナーで取り込んだりスマートフォン・タブレットなどで撮影したりして、CLIP STUDIO PAINTに画像として取り込むことも可能です (P.052 参照)。取り込んだ画像 (下描き) は、そのままでは暗すぎたり、線が薄かったりする場合があるため、色調補正レイヤーの「明るさ・コントラスト」(P.118 参照) で明るさを調整しましょう。また、色調補正レイヤーの「レベル補正」を利用すると、線の濃い～淡いを細かく調整できます。

CLIP STUDIO PAINT の筆圧を調整しよう

CLIP STUDIO PAINTでは、ペンタブレットを使うことが基本です。イラストを描く前に、適切な筆圧に調整しておきましょう。

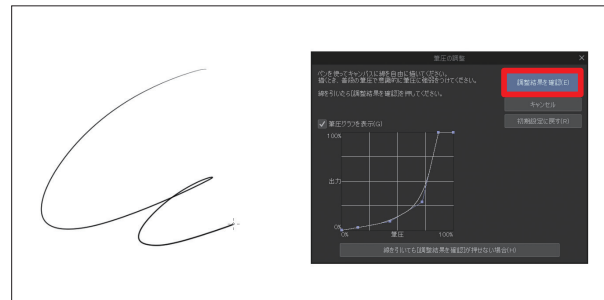
筆圧を調整する

- 1 メニューバーの [ファイル] → [筆圧検知レベルの調節] の順にクリックします。



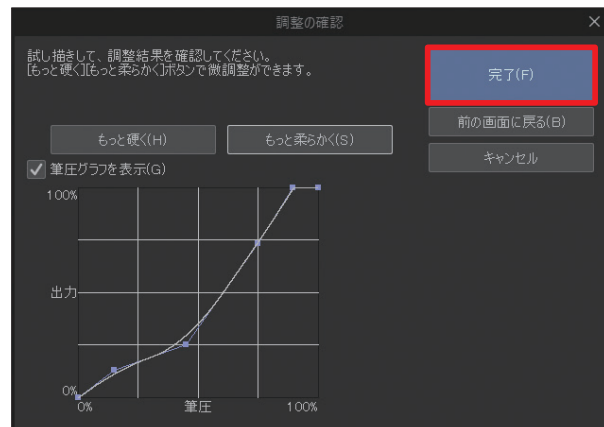
iPad版では、 → [筆圧検知レベルの調節] の順にタップします。

- 2 「筆圧の調整」ダイアログボックスが表示されたら、キャンバス上で描画し、[調整結果を確認] をクリックします。



ペン・ブラシごとに筆圧を調整することもできます (P.124 参照)。

- 3 「調整の確認」ダイアログボックスが表示されたら、手順2で設定した調整が反映された状態で描画できます。キャンバス上で描画をくり返し試し、描きやすい設定になったら [完了] をクリックします。

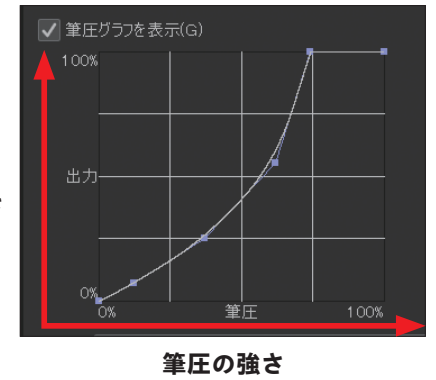


[もっと硬く] または [もっと柔らかく] をクリックすると、より詳細な筆圧検知レベルを調整できます。

筆圧グラフを使って調整する

P.040 手順2の「筆圧の調整」ダイアログボックスにある「筆圧グラフ」は、縦軸がキャンバスに描画 (出力) されるブラシの大きさ、横軸がペンの筆圧となっています。初期設定では斜めの直線の状態ですが、この直線をドラッグして調整することで自分の描きやすい筆圧に設定することができます。なお、ブラシの手ブレ補正についてはP.126、線の入り抜きについてはP.128を参照してください。

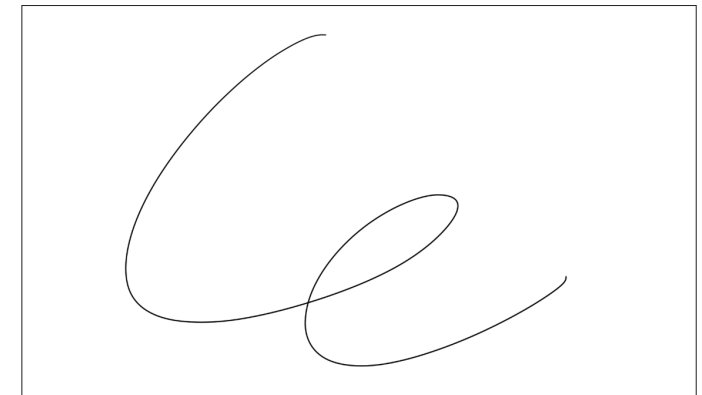
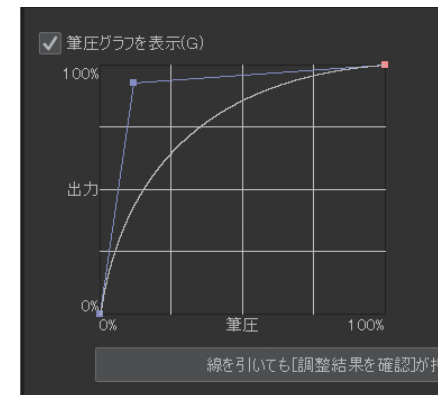
線の太さ



筆圧の強さ

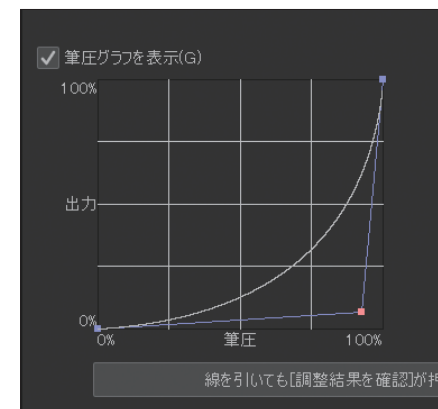
筆圧が弱い設定

直線をドラッグして左側に調整すると、少しの力でも出力されるブラシの大きさが増えるため、筆圧が弱くても描きやすい設定にできます。



筆圧が強い設定

直線をドラッグして右側に調整すると、筆圧に対して出力されるブラシの大きさが抑えられるため、筆圧が強い場合の設定に向いています。



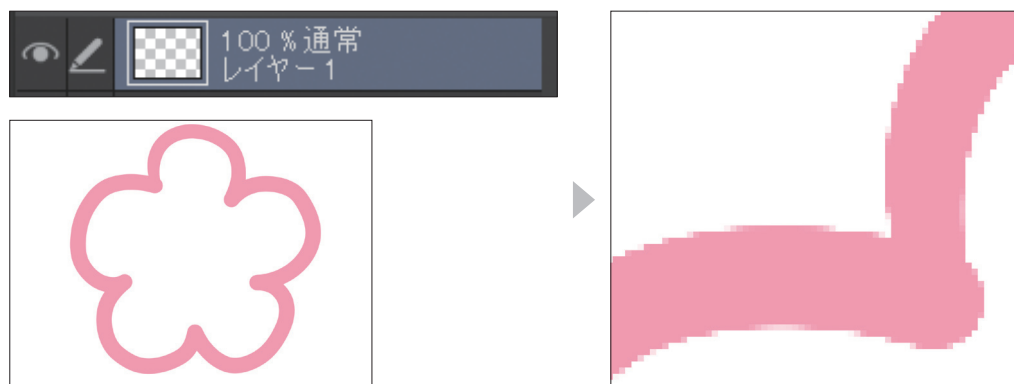
レイヤーの種類

CLIP STUDIO PAINTには、さまざまなレイヤーが用意されています。レイヤーごとの使用用途や特徴を確認しましょう。

レイヤーの種類と特徴

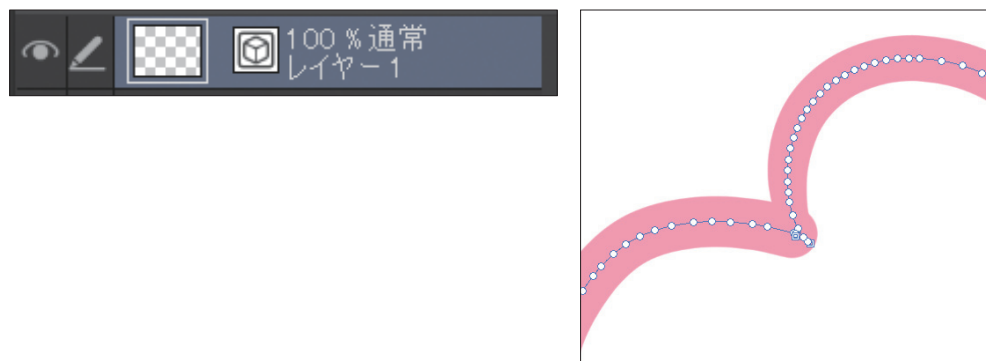
ラスターレイヤー

ラスターレイヤーは、ペンやブラシで線を描いたり色を塗ったりするための基本的な描画用レイヤーです。イラストを描く際に使う機能のほとんどを制限がなく利用でき、ラスターレイヤーのみでイラストを完成させることができます。どのレイヤーで描くか迷った場合は、ラスターレイヤーを選ぶとよいでしょう。しかし、ラスターレイヤーはドット1つ1つの集まりであるため、変形や拡大・縮小などを行うと、ギザギザした粗いドットが生じてしまい、画像の劣化が目立つようになります。また、描画のあとに修正が難しい点にも注意しましょう。



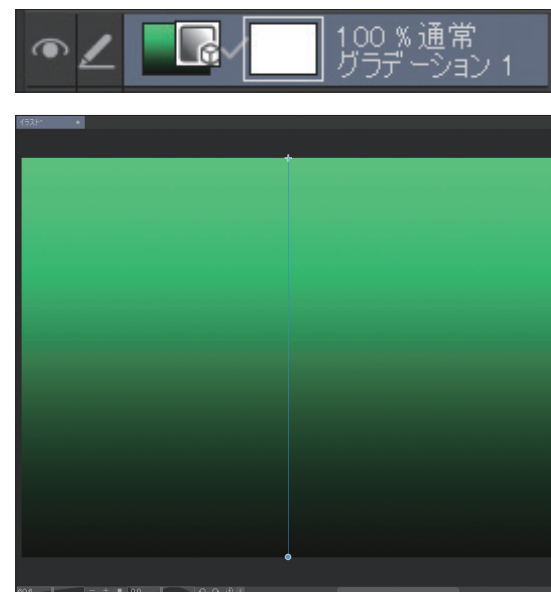
ベクターレイヤー

ベクターレイヤーは、「制御点」と呼ばれる点で線の情報を記録して描画するレイヤーです。一度描画したあとでも、制御点を使って再度編集することが可能な点が大きな特徴です。ただし、色を混ぜたり、重ねたりする複雑な描画には向いていないほか、塗りつぶしツールなど一部の機能を使用することができません。



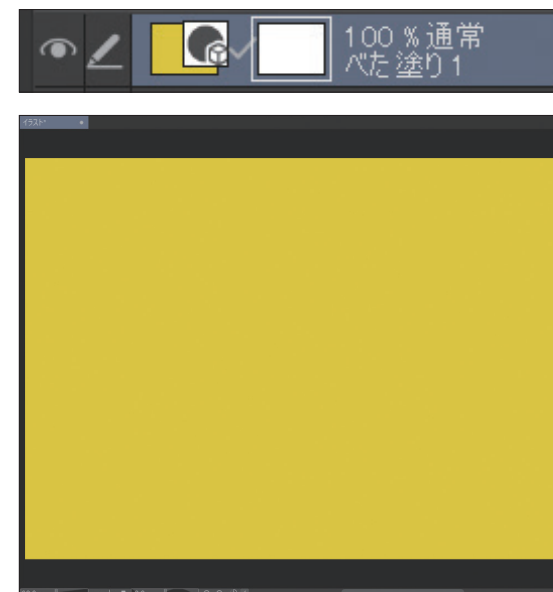
グラデーションレイヤー

キャンバス全体や選択した範囲をグラデーションで塗りつぶすことができるレイヤーです。



べた塗りレイヤー

キャンバス全体や選択した範囲を指定した1つの色で塗りつぶすことができるレイヤーです。



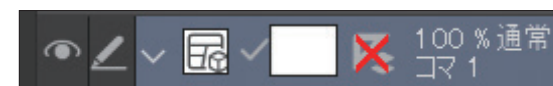
トーンレイヤー

白黒の漫画原稿で使用するトーンを貼り付けることができるレイヤーです。主に漫画制作で使用されます。



コマ枠フォルダーレイヤー

漫画用のコマ枠を扱うことができるレイヤーです。主に漫画制作で使用されます。



3Dレイヤー

3Dオブジェクトを配置できる空間レイヤーです。



用紙レイヤー

キャンバスの背景色を扱うことができるレイヤーです。一番下のレイヤーに固定されます。



色調補正レイヤー

画像の明るさやコントラスト、色などを変更できるレイヤーです。



MEMO ▶ そのほかのレイヤー

ここで紹介したレイヤーのほか、3Dデッサン人形や画像といったオブジェクトを扱うレイヤーや[ツール]パレットからツールを選択することで作成されるレイヤーなどもあります。

35

レイヤーに合成モードを設定しよう

レイヤーに合成モードを設定することで、レイヤー上の色にさまざまな効果を加えることが可能です。

レイヤーに合成モードを設定する

- 1 [レイヤー] パレットで、合成モードを設定したいレイヤーをクリックして選択し、[通常] をクリックします。



- 2 任意の合成モード（ここでは[乗算]）をクリックして選択します。



レイヤーフォルダ (P.087参照) にも合成モードは適用できます。

- 3 レイヤーの合成モードが「乗算」に設定され、レイヤー名の上にある表示が変更されます。

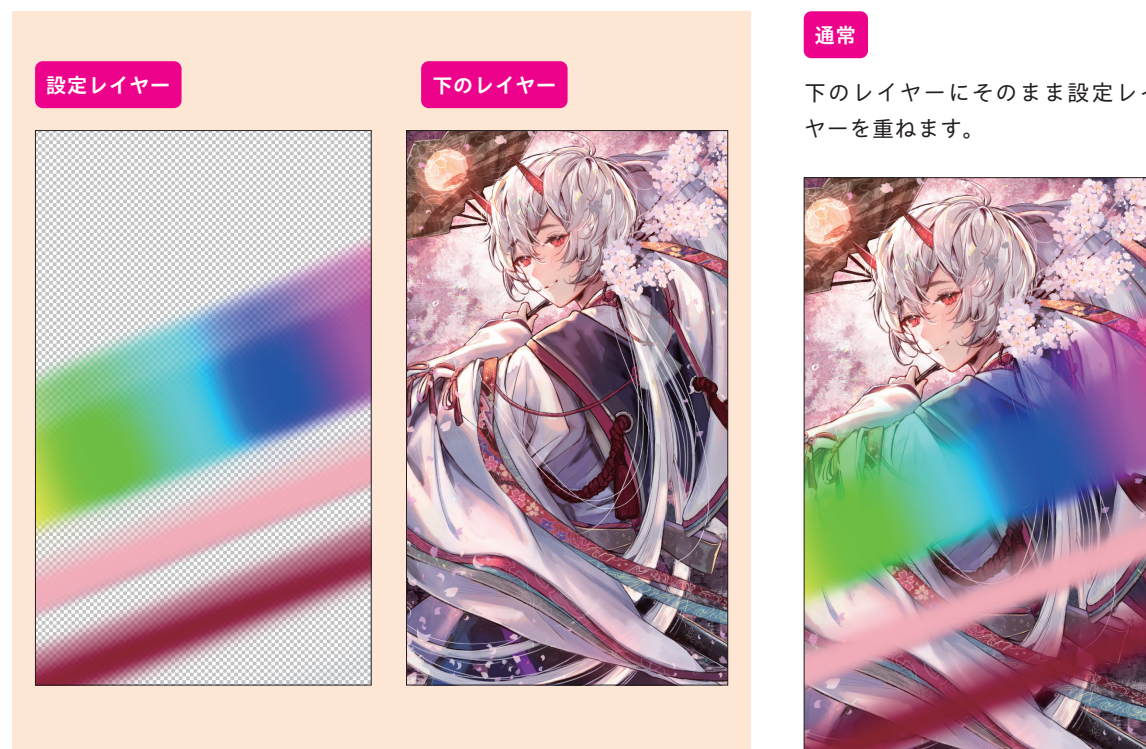


レイヤーの合成モードは、初期設定では「通常」に設定されています。設定レイヤーの色を、下にあるレイヤーの色にそのまま重ねます。

MEMO ▶ 合成モードの適用範囲

レイヤーの合成モードを設定すると、設定レイヤーより下にあるすべてのレイヤーに効果が適用されます。また、フォルダ内のレイヤーに設定するとフォルダ内のいちばん下のレイヤーまで設定されます。ただし、レイヤーフォルダのモードを「通過」にすると、[レイヤー] パレットのいちばん下まで適用されます。

合成モードの種類



通常

下のレイヤーにそのまま設定レイヤーを重ねます。



比較(暗)

設定レイヤーと下のレイヤーの色を比較し、暗いほうを優先します。

乗算

設定レイヤーと下のレイヤーの色を掛け合わせた色を適用します。もとの色より暗い色になります。

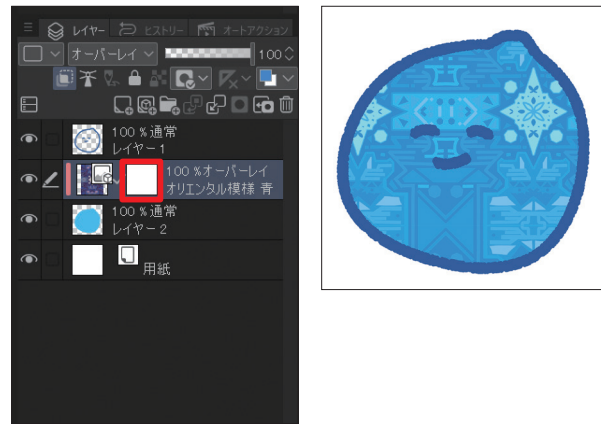
焼き込みカラー

下のレイヤーを暗くし、コントラストを強めたうえで、設定レイヤーの色を反映します。

レイヤーマスクを活用する

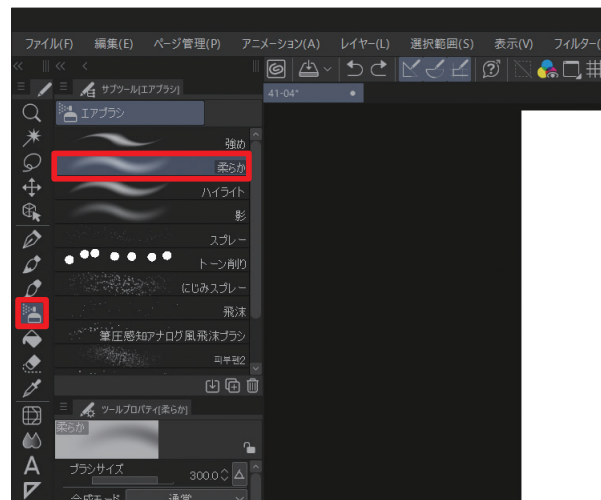
マスクを編集する

- 1 [レイヤー] パレットでレイヤーマスクを作成したレイヤーを選択し、右側に表示されたマスクサムネイルをクリックして選択します。



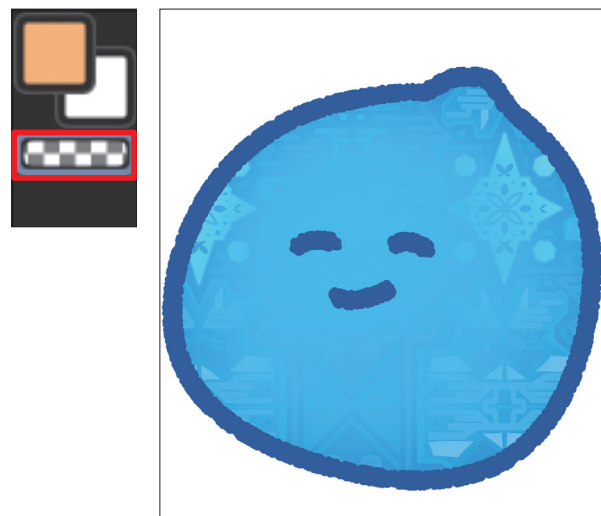
左側のレイヤーサムネイルを選択すると、キャンバスへ描画することができます。

- 2 [ツール] パレットから任意のブラシ（ここではエアブラシツールの [柔らか]）をクリックして選択します。



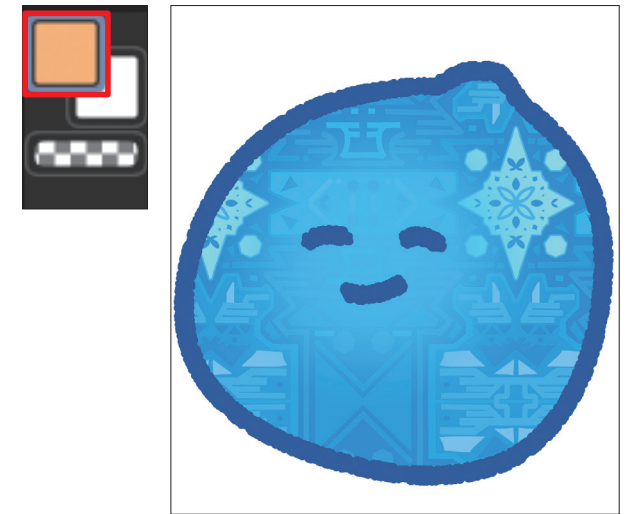
レイヤーマスクは不透明度にも対応しているため、ブラシの不透明度 (P.126 参照) を調整することで任意の濃度にすることも可能です。

- 3 [ツール] パレット下部にあるカラーアイコンで [透明色] をクリックして選択し、キャンバスで表示されている部分に描画すると、非表示の部分を広げることができます。




カラーアイコンについては、P.036 を参照してください。

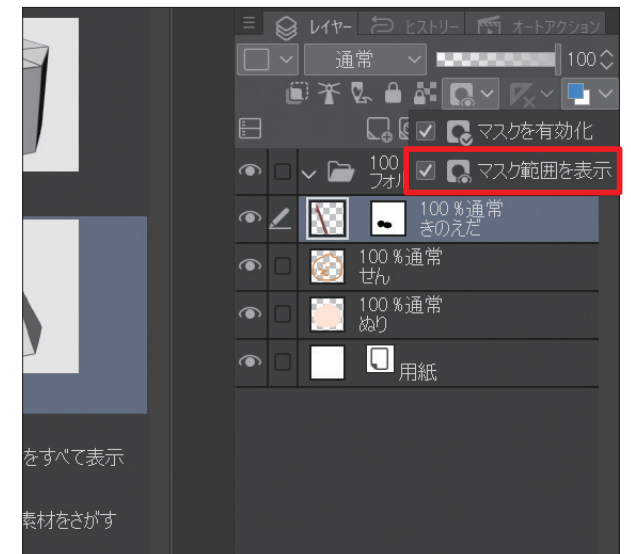
- 4 描画色を [メインカラー]、または [サブカラー] にして、キャンバス上で描画すると、表示する部分を広げることができます。



カラーアイコン (P.036 参照) のメインカラーやサブカラーで指定している色は、マスクを編集するときの表示には影響しません。


マスクを可視化する

- 1 [レイヤー] パレットでレイヤーマスクを作成したレイヤーを選択し、 をクリックして、[マスク範囲を表示] をクリックしてチェックを付けます。



- 2 レイヤーマスクの範囲が色付きの状態が表示されます。このままペンツール (P.129 参照) や消しゴムツール (P.144 参照) でマスク範囲を編集することもできます。



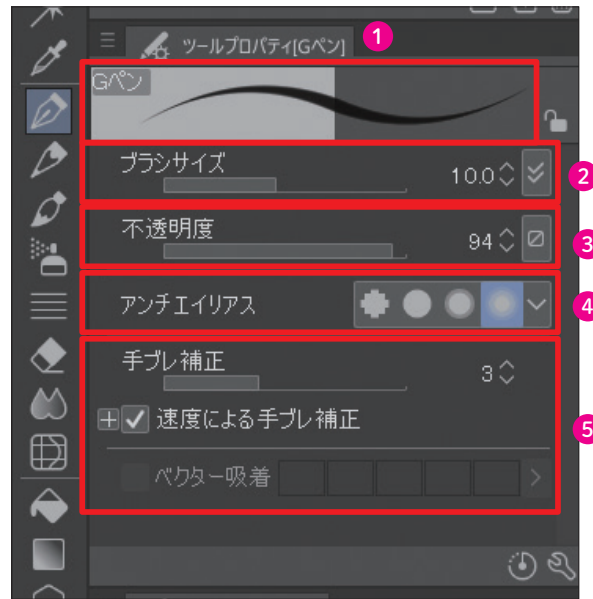
レイヤーマスクを削除するには、マスクサムネイルを [レイヤー] パレットの  までドラッグ&ドロップします。削除すると、キャンバス上の非表示も解除されます。

ペンの詳細設定

ペンの詳細設定は [ツールプロパティ] パレットから行います。ここでは、どのような設定ができるのかについて解説します。

ペンツールの [ツールプロパティ] パレット画面

[ツールプロパティ] パレットでは、選択中のサブツールに関連する設定を調整することができます。ツールプロパティのカテゴリーは、選択するサブツールによって異なります。ここでは、ペンツールの [Gペン] を選択したときの状態を例に解説します。



さらに細かい設定を行いたい場合は、 をクリックして [サブツール詳細] パレットを表示します。

①	ストロークプレビュー	選択中のサブツールのストロークをプレビュー表示します。
②	ブラシサイズ	ペンのブラシサイズを変更できます (P.127 参照)。
③	不透明度	ペンの不透明度を変更できます (P.127 参照)。
④	アンチエイリアス	ペンで描いたときの線のなめらかさを調整できます (P.127 参照)。
⑤	手ブレ補正	手ブレ補正を設定できます (P.127 参照)。

MEMO ▶ ロックする / 初期設定に戻す

[ツールプロパティ] パレットで をクリックすると、設定した値などを選択中のサブツールに保存できます。なお、保存した [ツールプロパティ] パレットの設定を解除し、選択中のサブツールを初期設定に戻したい場合は をクリックします。

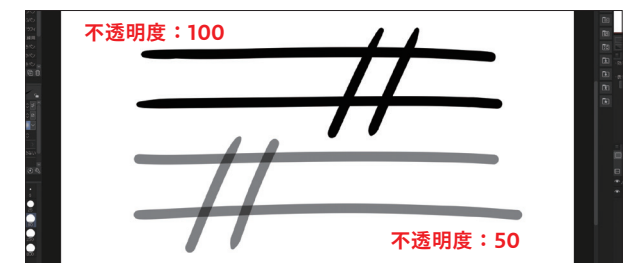
ブラシサイズ

バーを左右にドラッグすることで描画サイズを変更できます。数値を直接入力することでも変更可能です。[ブラシサイズ] パレットよりも、より細かな調整を行いたいときはここから行います。



不透明度

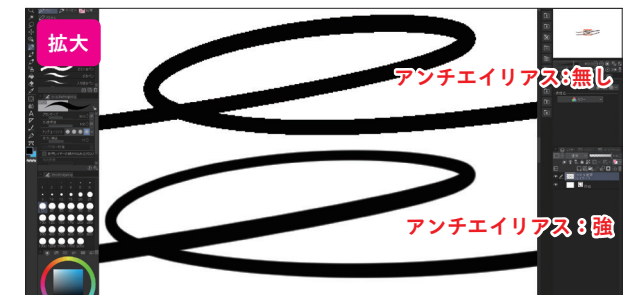
バーを左右にドラッグすることでブラシの不透明度を変更できます。数値を直接入力することでも変更可能です。



アンチエイリアス

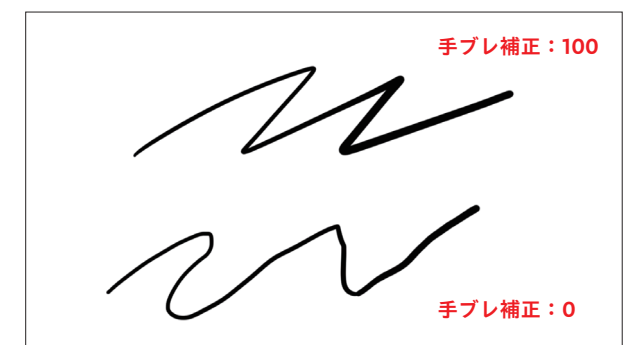
アンチエイリアスとは、描いた線のフチをぼかして、なめらかな線に見えるように変換する機能のことです。

CLIP STUDIO PAINT では、「無し」「弱」「中」「強」の中から設定できます。アンチエイリアスが「無し」の状態では線のギザギザが目立ちます。アンチエイリアスを設定すると強度に応じて線のフチがなめらかになり、より柔らかな線を描くことが可能になります。ただし、ギザギザ感が目立たないようにぼかしている色が入る分、塗りつぶしではぼやけた部分に色が塗られず、影響が出ることもあります。



手ブレ補正

バーを左右にドラッグすることで手ブレ補正 (手ブレによる細かい線の揺れを自動的に軽減する機能) の度合いを調整できます。




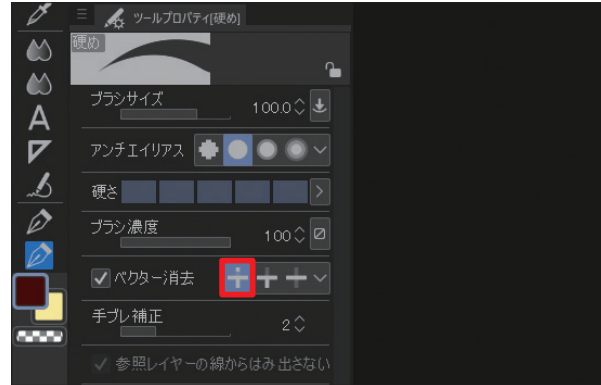
著者の場合、手ブレ補正はいつも「0~6」で描きますが、髪などハリがあるものは「12」くらいに上げて描きます。

ベクター線を消す

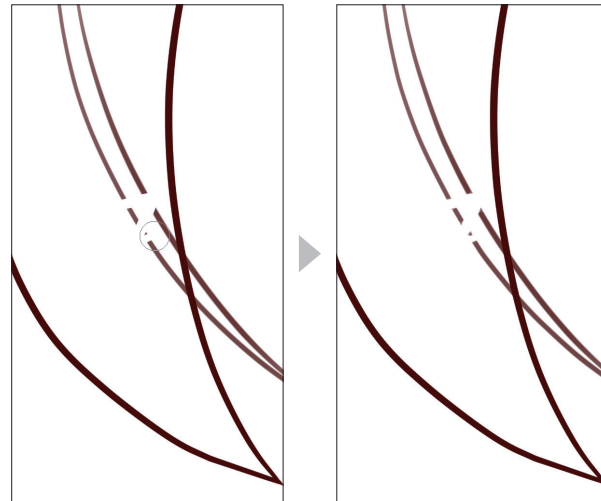
ベクター線は、消しゴムツール (P.144参照) を使うことで、ラスターレイヤー上に描かれた線と同様に消すことができます。ここでは、消しゴムツールでベクター線を消す方法を紹介します。

触れた部分


- 1 P.144手順1を参考に消しゴムツール (硬め) を選択したら、[ツールプロパティ] パレットの [ベクター消去] をクリックしてチェックを付け、[触れた部分]  をクリックして選択します。

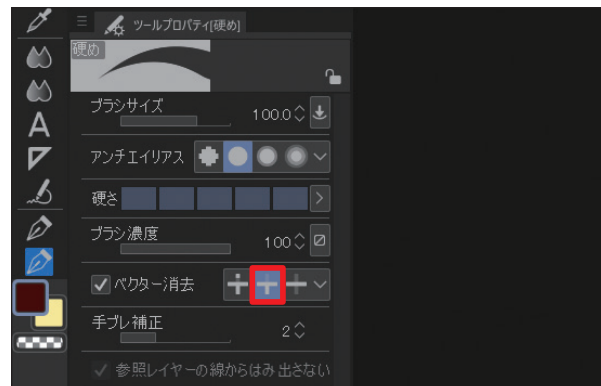


- 2 ベクター線の消したい部分をドラッグすると、触れた部分のみベクター線が消去されます。

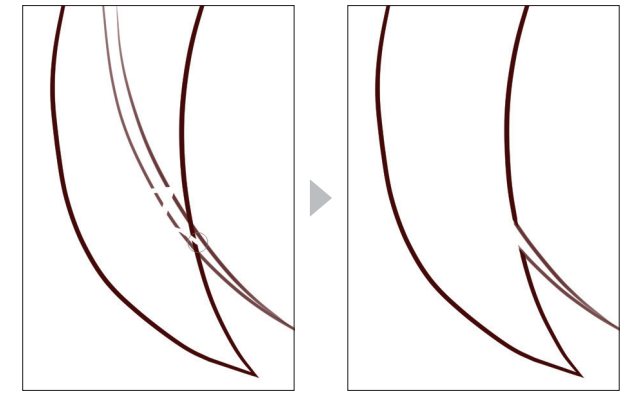


交点まで


- 1 上の手順1の画面で、[ツールプロパティ] パレットの [ベクター消去] をクリックしてチェックを付け、[交点まで]  をクリックして選択します。

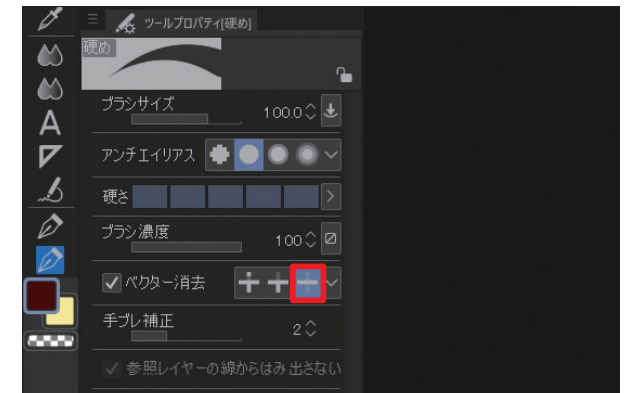


- 2 ベクター線が交差している状態で、ベクター線の一部をドラッグすると、ほかの線と交差しているところ (交点) までベクター線が消去されます。

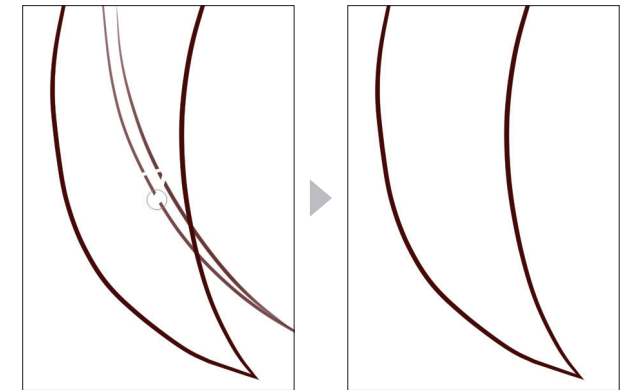


線全体

- 1 P.188の上の手順1の画面で、[ツールプロパティ] パレットの [ベクター消去] をクリックしてチェックを付け、[線全体]  をクリックして選択します。



- 2 ベクター線の一部をドラッグすると、ベクター線全体が消去されます。



MEMO ▶ ベクター中心線を表示する

ベクター線を消すときは、ベクター中心線にツールを当てるようにすると、消したい線をうまく消去することができます。より複雑な線になってきたとき、ベクター中心線がどこか分かりにくいときは、メニューバーの [表示] → [ベクター中心線表示] → [選択中のレイヤーの中心線を表示]、または [すべてのベクターレイヤーの中心線を表示] をクリックすると、ベクターレイヤー上に描いた線にオレンジ色のベクター中心線が表示されます。

髪の毛の塗り方

表紙イラストでは、髪色が暗く見えなかったため、明るい色で解説します。柔らかい髪になるように、弱いグラデーションやツヤを加えましょう。

髪にグラデーションをつける

ベクターレイヤー (P.075参照) に濃い鉛筆ブラシ (CLIP STUDIO ASSETSからダウンロード可能。ブラシ素材のダウンロードについてはP.160参照) でピンクの線を描いたあと、エアブラシツール (P.136参照) でグラデーションをかけて髪全体を塗っています。

毛先は、肌の色が透けて見えるように、肌の色をスポイトして (P.140参照)、エアブラシツールで塗りましょう。新しい色を追加するときは、別レイヤーにクリッピング (P.104参照) しておく、不透明度を下げる (P.082参照) だけで調整が楽にできます。



髪の毛のツヤを塗る

筆ツール (P.130参照) の厚塗りにある塗り&なじませブラシで、前髪に3本、ほんの少しだけ暗いピンクを波のように描き足します。同様に横髪にも描き足します。

ツヤを追加



描いたところ



POINT ▶ ブラシの運び方

ブラシを横に引きながらうねうね描くと、波の太さがどこも同じで描きづらいと思うので、タテに高さを変えながら塗ったあと、透明色で削る (P.146参照) ことで波の形を出していくように描きます。



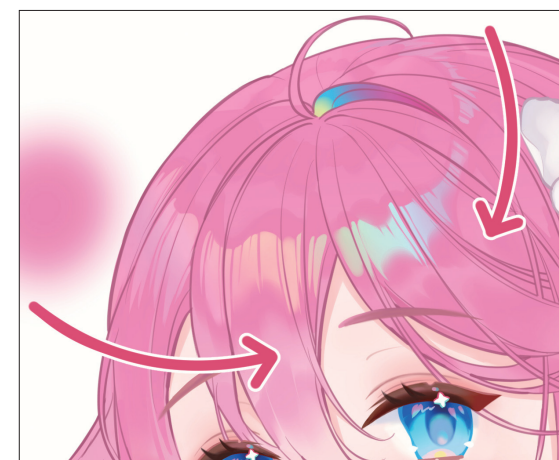
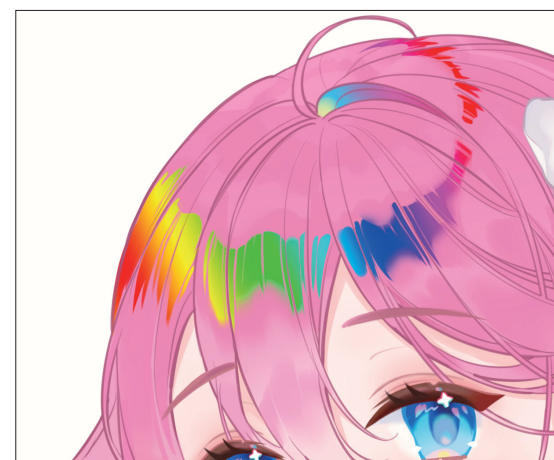
ハイライトを描く

柔らかい髪になるように、弱い色の変化を加えます。髪のハイライトを、ペンツール (P.129参照) のペンにあるGペンと濃い水彩ブラシ (CLIP STUDIO ASSETSからダウンロード可能。ブラシ素材ダウンロードについてはP.160参照) でべた塗りし、筆ツール (P.130参照) の厚塗りにある塗り&なじませブラシで、下のほうをぼかします。

透明色 (P.036参照) を選び、濃い鉛筆ブラシで細くランダムに消します。



虹色のグラデーションを加える



べた塗りでハイライトの形を描いたあと、新規レイヤーでクリッピングし、グラデーションツール (P.148参照) の「虹」を塗ります。

ハイライトだけくっきりアニメ塗りっぽくなり目立つので、新規レイヤーをクリッピングしたあと、エアブラシツールで髪色のピンクを塗ります。

なじませるために、手前は薄く、奥は強めにしっかり塗って虹色を隠します。奥と手前はブラシの強弱で調整し、全体の不透明度を下げます。

